

健やかに生き、安らかな最期を

# Living Will

リビング・ウィル

きちんと伝えたい  
ベストな終末の姿  
山東昭子さん

参議院議員



2017年  
10月発行  
No.167

Living Will No.167 2017年10月発行

発行 一般財団法人日本尊厳死協会 編集 協会会報編集部 デザイン FROG KING STUDIO 印刷 JPビズメール株式会社

## 出版案内

日本尊厳死協会がお勧めする必読の書。(書店では扱っておりません)

### 新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社



### 人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「?」に答えがあります。

- がんの末期 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す?
- 持続的植物状態 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら?
- 腎不全 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら?
- 救急医療 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは?
- 認知症 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は?
- 老衰 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か?

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。  
医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

### モルヒネは鎮痛薬の王者 あなたの痛みはとれる

編著 日本尊厳死協会 発行 中日新聞社

### 医療用麻薬のモルヒネ 適正使用で「痛み」はとれる

医療用麻薬を適切に使用した緩和医療は会員の願いです。

#### ●激痛から解放された

「痛みが取れ、夜よく眠れて、食欲も出てきた。夢のようです」——モルヒネの投与で激痛から解放された患者の喜びの声です。

#### ●誤解されているモルヒネ

モルヒネの「中毒になり、死期を早める」「がん末期にしか使えない」といった誤解は、世界の医学界が否定しています。適正に使用すれば「鎮痛薬の王者」なのです。

#### ●がん以外の痛みにも効果

帯状疱疹後神経痛、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折、バージャー病、閉そく性動脈硬化症など、がん以外の痛みにも効果があります。

#### ●専門医がアドバイス

執筆者の1人、加藤佳子医師は、「痛みは本人にしか分からない。我慢しないで、医師に『痛みを取ってください』と言いましょう」と呼びかけています。





岩尾 先日、日本食生活協会の会

長だった松谷満子さんのお別れの会での山東先生の弔辞、感動しました。松谷さんは、長生きというよりもどうしたらみんなが健康で過ごせるか、に腐心して活動されていました。「食育」ということにも以前から力を入れていて、農水省ともずいぶん掛け合つて頑張つてこられた。

山東 そうですね。よく頑張つてこられたと思います。私も自民党食育調査会長として一緒に活動してきましたからね。

岩尾 私たちの世代は、山東先生が女優として活躍されているお姿は知っていますけれど、そもそも政治家になるきっかけは、何だつたんですか。

山東 昭和47年でしたか、NHKで文化人の政治討論会のような番組があつてね、鈴木健二アナウンサーが司会で。そこで発言を、自民党の人や田中角栄総理が見て、「あれ、いいじやないか」となったようで、幹事長だった橋本登美三郎さんから巻紙の手紙がき

#### 参議院議員

## 山東昭子さん ベストな 終末期の法整備に 力を尽くしたい

構成／会報編集部・郡司武 写真／八重櫻信之

「角栄先生に『若いうちに  
政界へ』と言われ

——ご一族の中にも政治家がい  
らっしゃるんですね。

山東 そうですね。曾祖父は山東

直砥といって、坂本竜馬や陸奥宗光とも親しかつたようで、陸奥宗光が神奈川県令（知事）の時に神

奈川県参事（副知事）をしておりましたし、大叔父は衆議院議員だった児玉亮太郎です。原敬の秘書から代議士になつた人です。祖父の義兄は朝日新聞の副社長やNHK会長もした下村海南（宏）で、終戦の玉音放送の際の内閣情報局総裁でした。まあ、そういう血があるといえばあるんでしょうか。

初めて田中角栄先生にお目にかかる時に、「大事なのは、いろんな人に会つて吸収する能力があるかないかだ。政治家といつても最初はなにもわからない。モノになるには10年かかる。それには若干年に政界に出ることだ。女性が少なすぎるのもよくない、女性はもっと活躍しないと……」いろいろ言われ、選挙に出ることになりました。32歳でした。

岩尾 山東先生とは、私が厚生省（当時）にいた頃からのお付き合

いでいますが、年末の予算案編成時など、省内の陣中見舞いによくおいでいただきました。

山東 国會議員として最初は私、

に関わっていて、いろいろ施設を回つたりもしました。橋本龍太郎先生の近くにいて、その後、厚生労働省の仕事が多くなりました。

年末の予算取りなど、いろいろ思

い出がありますね。夜中の2時頃、

未熟児のいる病院などに主計官に

も一緒に行って実際に見てもらい、

看護婦さんの人員確保などの予算

を付けてもらつたこともあります

た。男の議員の方は、疲れて寝て

いる大蔵省（当時）の主計官を起

こして、「ね、予算付けてよ」な

んてやつていましたが、私は寝て

いるのを起こすのは可哀想だと思つて、「お願ひします」とメモを

机に残してきたこともありました。

それで、ちゃんと予算、付けても

らいましたよ。

### 「元気なうちに終末のあり方を伝えること」

**岩尾** 先生に今、私どもの尊厳死

とか終末期医療の分野にお力を貸

していただいておりますが、それ

らに対する原点は、どこにあるん

でしようか。

**山東** 死というのは誰しも訪れる

ことですけれど、日本人は、死について語っちゃいけないみたいなことがありますしょ。でも、これからは死を前向きに語つていいのではないかと思いますね。お寺も、亡くなつてからのことばかりですか。どう生きるかにつきても、もっと踏み込んでほしいですね。私も75歳ですが、幸い、現在は薬も飲んでいないし白髪も染めてません。日本をいろいろ回つてますと、元気なお年寄りが多

いし、活躍してますよ。元気なうに死を語り、終末のあり方を伝え、相続についても話したりすることが大事だと思います。

**岩尾** 今は、長生きの時代ですが、寝つきになつて人工的に生かされているような状態ではない、どう価値のある生き方ができるかが極めて大事ですね。「クオリティ・オブ・デス」という言い方もあります。命が「限りある状態」になつた時に、死に向かう価値をどうつくつていくのか。

**山東** 昭和60年に、アメリカのホスピスに視察に行つたことがあります。宗教の違いもありますが、向こうでは牧師さんたちが中心になつて活動していました。「生きている時間を楽しむ」そういう意識が強くありましたね。余命1年くらいの若い人たちを視察しましたが、野球の好きな人は出来るだけ野球を見に行つて、それで満足して亡くなつたとか。アメリカ全土を回つて、がんの撲滅を訴えて亡くなつたとか。それぞれ、自分に与えられた時間を上手に過ごしているような印象でした。日本も、そういう社会環境になればいいなあと思いましたね。でも、日本では、なかなかホスピスの数も増えていますんでしょ。



さんとう・あきこ

1942年、東京生まれ。11歳で子供番組の司会として芸能界入り。15歳でラジオドラマ「赤胴鈴之助」のナレーターを務める。1974年、田中角栄首相（当時）に請われ参議院選舉に全国区から立候補して初当選、最年少参議院議員。1990年、科学技術庁長官に就任。2007年、女性初の参議院副議員に就任。参議院議員の当選7回は過去最多に並び、女性では初。終末期における本人意思の尊重を考へる議員連盟の顧問を務める。

### 「日本は『世間体』という壁を作つている」

**山東** 私の父は明治43年生まれで、29年前に亡くなっていますが、安らかな最期でした。白菊会に入つていたので献体をしたんですけどこれが大変なの。文句がくるといけないから、幅広く、家族や親せきの同意書がいっぱい必要なんですよ。「えー、そんなところにま

で同意書を求めるの？」って思いました。最期まで生きて、献体を希望したら、家族とトラブルになつたというような話も聞きました。**岩尾** 最近では献体を希望する人が増えてきていると聞きます。超高齢社会で家族のいない独居老人が増えてくると、死後、大学に献体すれば葬儀などの後始末をしていただけるので、増えているのかかもしれません。ただ、私の学生時代、解剖実習で割り当てられた献体の中に、胃がない方がおられました。胃がんの手術をしたようで、実習用献体としては不完全でした。先生おっしゃるように、献体では家族の同意という大前提がありましたが、日本では医療現場で家族の意向というのを、本人も、いわゆる「忖度」してしまって、「どうしますか」と医師が聞いても「家

族と相談しないと決められない」と言う。本人の意向が分からないと、医師もどうしていいか、困ってしまう。

**山東** 日本は「世間体」ということが、いろんなところに壁を作つているような気がしますね。世間体より個人の意向ですよ、大事なのは。

**岩尾** 本人にとつても家族にとつても、今言われた世間体からみても、良くない状況だと思います。今、問題なのは、認知症などで自分の意思を明確に示せない人の最期をどうするかなんですね。「遠くの親せきよりも近くの他人」で、身近で面倒をみてもらっている人に本人の意向を判断してもらうことができるないだろうか。成年後見制度があり、本人に代わつて「家族」が意思を示すとなつてますが、「家族」といつてもどこまでが家族なのか、その範囲が明示されないのが現状です。遺産相続でも、その本人が意思表示できない状態であれば、第三者に相続はできません。ずっと連絡もなかつ

たどこかの遠い親せきがやつてきて相続していく、というのが今の日本の現状です。なんとも理不尽ですね。

医療関係者にとつては、本人の意思表示したリビングウイル一枚でもあればいいんですが。

**議員個人の判断を**

**山東** ですから、私たちは終末期の医療についてのルール化に向けて取り組んでいるわけです。現場のそういう声を聞きながら、法制化を含め、考えていかないといけない問題ですね。尊厳死の意思表示はシンプルにしたほうがいいと思いますね。

## 『生きる価値』を最期まで求めることが大事（岩尾）

いし、活躍してますよ。元気なうに死を語り、終末のあり方を伝え、相続についても話したりすることが大事だと思います。

**岩尾** 先生が参議院副議長になられた10年前の2007年と今とは、参議院の役割が変わったといふような印象はありますか。衆議院のコピーみたいな言われ方もされます。参議院は、もう少し独自性があつていいくんじやないかと思います。先生には終末期医療だけではなく、いま問題になつてゐる「喫

煙・禁煙のルールづくり」でも主導的な立場におられます。この

ような個人の生き方とか主觀に関わることにおいては、賛否について党議拘束をかけないとか。

山東 政策の内容によっては、そういうことも必要でしようね。タバコの問題は大臣も議員も、お互いに柔軟性をもつて取り組まないと、うまく進まないと思いますよ。生死の考え方は多様ですから、団体や政党の意向というより、もう少し議員個人の判断、個性を出してもいいと思いますね。

「法整備はもめない形で進めることですね」

——いま、将棋か話題ですけど、先生は「将棋文化振興議員連盟」の会長でもありますよね。

山東 将棋は議員になる前からプロの指導を受けていましたが、女性にも将棋を広めたいということです、将棋会館に誘われて行ったりしました。田中角栄先生も将棋が好きでしたから、日高とか軽井沢に行って、将棋を指したこともあります。

4段と14歳の藤井4段がしているのを見てました。新しい時代を感じましたね。

岩尾 それでは最後に、会報の読者は12万人おりますが、読者にメッセージをいただければ。

山東 会員の皆さんのは、おそらく同じだと思います。尊厳死に対し、政策として法律をきちんと作って対応していかなければいけないなと思っています。それには、先ほど理事長が言われたように、党議拘束を外すとかして進

めることでしようね。日本はいろんな分野でそうなんですが、「言わなくても分かり合える。なあなあ」みたいなところがありますよ。これからはきちんと主張していくべきは主張し、周りの環境を整えながら、もめないような形で進めることでしようね。その人にとってベストな終末、苦しまないで生を全うできるような、そんな法整備に力を尽くしていきたいと思います。



岩尾總一郎(いわお・そういちろう)／日本尊厳死協会理事長・医師。元厚生労働省医政局長、慶應義塾大学医学部客員教授。1947年生まれ。慶應義塾大学医学部卒。

りましたね。

岩尾 そういえば、将棋の藤井聰太4段は中学生です。夜中まで将棋をさしているのを見て思うんですがあつた記憶はありますね。

山東 労働省から聞き取り調査などで仕事をされて、労働省(現厚労省)から「労働基準法違反じやないか」とか言われなかつたですか。

先日、藤井君の29連勝のときに行つたんですよ、将棋会館に。将棋連の会長なものでね。終わってからの感想戦を19歳の増田康宏

### 対談を終えて

本文にあるように、行政官時代から、山東先生にはずいぶんと長いご厚誼をいただいています。

今回、久しぶりに先生とお話しを持つたが、エネルギーでチャーミング。まったくお年を感じさせない。禁煙議連をはじめ、まだまだ、国会での存在感は大きい。

日本尊厳死協会理事長・岩尾總一郎

## 岩尾總一郎理事長が再選 日本尊厳死協会の新役員が決まる

一般財団法人日本尊厳死協会の理事会、評議員会が6月24日、都内本郷の東大構内ホールで開かれ、今後2年間の新しい役員が決まりました。理事長(代表理事)には岩尾總一郎理事長が再選され、副

理事長には鈴木裕也、長尾和宏両氏が再選、青山邦夫氏が新しく就任しました。(別表参照)

今回改選されたのは2年の任期満了を迎えた理事(15人)で、うち10人が再選され、5人が新しく

### 会員数は減ったものの 収支は改善

会員数の年度別推移は、2012年度の12万6000人を

加わりました。最高議決機関である評議員会と監事は任期途中のため、改選はありませんでした。理事会・評議員会では2016年度の会員数を含めた事業報告と2017年度の事業計画などが示されました。

ピーカに漸減傾向にあり、2017年度の予測は11万3000人。2016年度は有名作家による「尊厳死と安楽死」発言や「リビングウイル」がメディアに取り上げられたことなどから新規会員は前年度に比べて増加しているが、死亡等の退会数がそれを上回り、結果として登録会員数は減少したと報告されました。

ほぼ会費収入のみで運営されている協会にとって、会員数減少は協会収支に直結しており、入会につながる効率的な普及啓蒙活動の方策が求められている、としています。

一方の収支は、2016年度の経常収益が1億5700万円で、前年度に比べて1300万円の減少。

### 2017年度役員名簿

#### 【顧問】

牛尾治朗 ウシオ電機株式会社会長  
扇千景 元参議院議長  
奥田碩 元トヨタ自動車株式会社会長  
小泉純一郎 元首相  
吉永みち子 作家

#### 【理事】

岩尾總一郎 代表理事、医師・慶應義塾大学医学部客員教授  
青山邦夫 副理事長、弁護士・元名古屋高裁部総括判事  
鈴木裕也 副理事長、医師・埼玉社会保険病院名誉院長  
長尾和宏 副理事長、医師・長尾クリニック病院長  
安達俊郎 理事・事務局長、会社役員  
江端英隆 理事、医師・札幌徳洲会病院名誉院長  
小林司 理事、元中日新聞局長・元家裁調停委員  
近藤和子 理事、看護師・マーケティング&ライスマネジメント研究所所長  
丹澤太良 理事、元会社員  
土肥理緒 理事、弁護士・看護師  
野元正弘 理事、医師・愛媛大学医学部附属病院特命教授  
橋村襄 理事、元新聞社論説委員  
原信之 理事、医師・国立病院機構福岡東医療センター名誉院長  
正木文治 理事、会社役員  
満岡聰 理事、医師・医療法人満岡内科クリニック理事長

#### 【監事】

茂木敬司 会社顧問  
和田義博 公認会計士・税理士

#### 【評議員】

北村聖 医師・国際医療福祉大学大学院教授  
相澤好治 医師・北里大学名誉教授  
伊勢田暁子 看護師・東京医科歯科大学大学院非常勤講師  
川合昇 元会社役員  
但木敬一 弁護士・元検事総長  
鳥海房枝 保健師・東京都看護協会保健師職能委員  
信友浩一 医師・九州大学医学部名誉教授  
松根敦子 元神奈川県点証奉仕団連絡協議会会长  
丸尾多重子 NPOつどい場「さくらちゃん」理事長  
宮島俊彦 岡山大学客員教授、元厚生労働省老健局長

経常費用が、普及啓蒙活動の見直しなどにより1億6900万円でおさまり、前年度に比べ2600万円の大額な減少。その結果、当期経常増減額は1200万円の赤字とはなったものの、前年度に比べ1300万円改善された

## 「ファシリテーター養成研修会開く

# LW世話人」という新しい活動の輪へ

文言固い、ガイダンス動画を  
△若手合宿から注文数々

今夏、協会で初めての「LW・ファ

シリテーター養成研修会」が佐賀県で開かれました。

聞き慣れない言葉ですが、「ファシリテーター」とは「世話人」といった意味です。

研修会は7月22、23両日、嬉野市の国立嬉野医療センター会議室で開かれ、約50人が参加した。佐賀、長崎両県の協会役員のほかは大半が会員ではないがLWに関心を持つ両県の有識者。企画した協会の満岡聰・さが会長（本部理事）、白髭豊・ながさき会長（本部理事）にこたえた人たちだ。

研修会は1日目が岩尾總一郎理事長、板井孝堯郎・宮崎大学医学部教授ら5氏による講演と質疑応

答の座学、2日目は「理想の事前指示書に作り替えてみよう」を課題にしたグループ討論のあと、松

本武浩・長崎大学医学部准教授が「LW普及とICT（情報通信技術）活用の提案」を講演した。

新しい試みだけに、随所にユニークさが見られた。参加者の多彩な顔ぶれと、合宿気分があふれた型破りな運営方式である。

### △佐賀・長崎の多彩な顔ぶれ

参加者は男女半々で50、40歳代がほとんど。地域医療ネットワークや医療機関に所属する医師、看護師、薬剤師、介護職員が多くつた。長崎大学や佐賀大学の医学、



グループ討議では講師が各テーブルを回った。正面は白髭豊ながさき会長=国立嬉野医療センターで

看護学系の教授など学識者のほか、行政や国立嬉野医療センターからの参加者も。

2日目のグループ討議「理想の事前指示書に…」は「協会リビング・ウイル（事前指示書）」への注文だけに、興味深い作業だったよう。全員が7グループ（6、7人ずつ）に分かれ、1時間、議論を重ねた。講師陣が各テーブルを回り、議論に加わった。グループのまとめを7人の代表が発表した。

「LW・ファシリテーター」の役割はまだ見えてこない。が、LWに関心を持つ人の輪が地域で生まれてくる可能性を感じた。

岩尾理事長は挨拶で「ファシリテーターは、LW作成とその支援のなかで活動できる存在になるのではないか。他の地域でも研修会ではないか。

の全員が「次回も参加したい」と希望した。1泊2日とはいえホテルでは全員が4人相部屋で布団を敷きつめての一夜。LWを、お互に理解し合える会となつた。

実は、時間が不足して議論を幾つか積み残した。それでも参加者は「ガイダンス動画（DVD）」を用意したり、「入会相談アドバイザー」を養成したりした方がよい、という意見も出た。

書いたものであります」、一般市民に広げようという気持ちを感じられない。文章はやさしく、平易にと指摘された。また、入会希望者に案内書が届くだけだが、協会

を試みたい」と述べた。

◇  
講演と講師は次の通り。

- 「意思決定支援に関する世界の潮流」（岩尾總一郎理事長）
- 「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」（白髭豊ながさき会長）
- 「成年後見制度の問題と医療代理人」（江越正嘉弁護士、さが理事）
- 「意思決定支援の問題事例と宮崎市の『わたしの想いをつなぐノート』」（板井孝堯郎・宮崎大教授）
- 「協会発行のLW検討会報告」（満岡聰さが会長）

想がある。

松本准教授はLW情報を「個人管理健康情報」とし、個人が持つ臓器移植カード、オレンジノート（認知症関連）情報も含めて包括して「ネット」のデータベースに保管することを提案した。

ただ、個人管理情報だけにLWの意思変更など情報更新を本人自身ができることが求められる。個人情報保護面からの課題も多い。協会は日本で最多のLW情報を集積するだけに、「その道筋を開く、バイオニアに」という意見も会場で聞かれた。

### △佐賀・長崎の多彩な顔ぶれ

参考：LW情報を地域ネットで共有：

## 松本・長崎大准教授の提案

研修会では、長崎大学医学部の松本武浩准教授が講演の中で「地域医療ネットワークでLW情報の共有」を提案した。

長崎県ではICTを利用した地域医療連携として全国最大規模の「あじさいネット」が運用され、340医療機関が参加し、登録患者数は約6万7千人。

共有情報は、手術など治療内容や診療記録、CTなど画像情報に

薬の調剤情報。たとえば、かかりつけ医がパソコンで「ネット」にアクセスして、他病院で受けた患者さんの診療データを閲覧して、診療に役立てられる。

もし「ネット」にLW情報が共有できれば、終末期患者の意思をどこからでも確認できる。ひいてはLWの普及につながるという発

## 活動コラム



### 内外から異色の顔ぶれで議論 第6回LW研究会開く 高久日本医学会会長も挨拶

第6回日本リビングウイル研究会が6月24日、東京大学伊藤国際学術研究センターで約300人が参加して開かれた。意思能力が衰えていく人の支援はどうするかについて、現場の声や海外からの報告も交えてディスカッションした。

佐賀市で内科クリニックを開く満岡聰医師（協会理事）がコーディネーターを務めた。報告者、パネリスト（写真）は海外からの2人を交えた7人で、うち女性が5人という構成。地方で活動する人も並んで異色の顔ぶれだった。

日本医学会の高久史磨会長も姿を見せ、飛び入りで挨拶した。高久氏は「研究会を知り、初めて出席させていただいた。意義深い活動である」と述べた。

佐賀県で活動する上野幸子看護師、鐘ヶ江寿美子医師、都内で在宅医療に取り組む鈴木央医師が「現場から」を報告、松隈知栄子弁護士（愛知県）が医療同意・代行の法的問題を取り上げた。また「海外から」は、米国在住の大西睦子医師とオランダ在住のシャボットあかね研究者がそれぞれの国の意思決定支援の実情を報告、議論に加わった。



# LW受容協力医師制度の展望

ルボ——3000人以上を在宅で看取った  
五味博子医師(市原市)の「臨戦活動」

「寝なくていいのよ、私は」と、24時間365日、  
在宅医療に対応している五味医師の日常と  
その思いを、千葉・姉崎に訪ね、ルボする。

「痛みや苦しみが強い時の往診は

緊急車(ホスピスカー)ですみや  
かに駆けつけます。自宅療養を続  
けていきたいとお考えの方、でき  
るだけ早く退院をご希望の方、サ

ポートをするため24時間、365  
日対応いたします」

ホームページに、そう掲げる五  
味博子医師(59)は、千葉県市原市  
のJR姉崎駅近くにクリニック  
を開いて25年。これまで3000  
人以上を在宅で看取ってきた。こ  
こ数年は年間200人ほどだとい  
うから、2日に1人以上を看取つ  
ていることになる。

「ここは田舎なので、老人は末期  
を悟ると自宅に帰りたがるし、家  
を駆けつけける



赤色灯の付いた車で駆けつけける

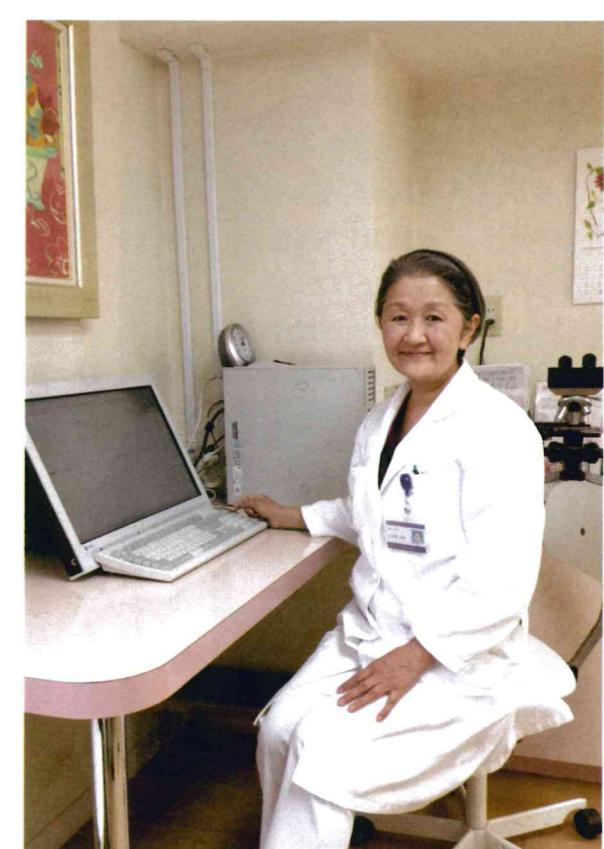
族も昔から『家の中央の間』に床  
を移して、普段通りの生活の中で  
自然に往生されることが多いんで  
す。そこに私たちが呼ばれ、最期  
を看取るわけです」

「パジャマを着て  
寝てませんから」

それにしても、24時間、365  
日対応とは大変では?と水を向  
けると、患者さんは五味医師の  
ケータイ番号を教えておくのだと  
いう。「いつでも心配な時は呼ん  
でください。必ずすぐに来ます。  
日曜、祝日でも、夜中でも、いつ  
でもかまいません。私たちはパ  
ジャマを着て寝てませんから」と

伝えてるんです。寝なくていいの  
よ、私は。普通に寝てて、私たち  
のような在宅・末期ケアの仕事な  
んてできやしません!』と、ハギ  
レがいい。

クリニックの看護師と訪看など  
総勢24人ほどでチームを作りなが  
ら対応に当たる。常に臨戦態勢に  
ある五味医師の往診緊急車(ホス  
ピスカー)には、赤色灯が設置さ  
れていた。覆面パトカーのあれと



姉崎駅近くのビル5Fにあるクリニックで、  
五味博子医師

## 第1回LW受容協力医師 活性化対策プロジェクト開く 協会による「認定制度」の導入へ

初めての「LW受容協力医師  
活性化対策プロジェクト」が7月  
28日、本部会議室で開かれた。  
①登録医師数がなかなか増えな  
い、②受容医師の受けれるメリッ  
トがない、③尊厳死協会と受容医師  
の関係性が希薄、④会員から登録  
医師へのアクセスがわからない、  
など、現在抱える問題点に対し、

初めの「LW受容協力医師  
活性化対策プロジェクト」が7月  
28日、本部会議室で開かれた。  
①登録医師数がなかなか増えな  
い、②受容医師の受けれるメリッ  
トがない、③尊厳死協会と受容医師  
の関係性が希薄、④会員から登録  
医師へのアクセスがわからない、  
など、現在抱える問題点に対し、

わらず、急変した患者に家族があ  
わてて救急車に連絡し、病院に連  
れていかれることもあるという。  
「本人の意思にかかわらず連れて  
いかれたら、体中チューブだらけ  
にされてしまします。土壇場でそ  
んなことされたら、これまでの意  
思の確認と努力がダイナシよ」。  
そんな場合は、救急車にすぐに家  
へ、一体となつた活動を展開して  
いる。この画期的な活動を全国に  
広げたい」と挨拶。これを受けて、  
東海支部長の小林理事が「数年前  
の支部大会で『医師の知恵を借り  
ながら進める』ことを確認し、そ  
の後、愛知県・名古屋市の医師会  
と共催して開いているシンクタン  
クの会、さらには法制化研究会に  
発展してきた」と報告。

関東甲信越支部長の丹澤理事  
も、「問題点の解決をさぐるべく  
まずはアンケートを行い、活性化  
に向けた活動を開始している」と  
話した。

### 「朝日ムック」とのタイアップも

具体的な対策としては、「受容  
医師に冊子やマニュアルを作つて  
配る」「朝日新聞出版のムックと  
協会会報とのバーチャルタイアップ  
によって登録医師数の底上げを図  
る」(長尾副理事長)などの報告。  
提案がなされた。受容協力医師の  
メリットとして、協会による「認  
定制度」を導入することが検討さ  
れた。「認定証」を作成し、送付  
するというものの、この「活性化対  
策プロジェクト」は、具体化に向  
け、適時開かれる。

(郡司記)

# 四季の歌

—その風景と背景

第二回

## 旅愁

犬童球溪



窓うつ嵐に、夢もやぶれ、  
遙けき彼方に、こころ迷う。  
恋しやふるさと、なつかし父母、  
思いに浮ぶは、杜のこずえ。  
窓うつ嵐に、夢もやぶれ、  
遙けきかなたに、心まよう。

更け行く秋の夜、旅の空の、  
わびしき思いに、ひとりなやむ。  
恋しやふるさと、なつかし父母、  
夢じにたどるは、故郷の家路。  
更け行く秋の夜、旅の空の、  
わびしき思いに、ひとりなやむ。

(『中等教育唱歌集明治40・8』より)  
※原曲はアメリカのオードウェイ(Ordway)作曲の  
Dreaming of Home and Mother.

翻訳唱歌の代表的なもので、2007年に日本  
の歌百選に選ばれた。音楽家で医師でもあ  
ったオードウェイ(1824~1880)の原  
曲を訳詞した犬童球溪(1879~1943)  
は、熊本県人吉市の出身で、本名は「犬童信藏」。  
球磨川の渓谷に生まれたことから「球溪」とい  
うペンネームをつけた。  
熊本師範学校、東京音楽学校を卒業後、音楽  
教師として各地を転々とし、新潟高等女学校  
に赴任していたときに、この原曲を知り、遠く  
離れた熊本の故郷や父母を思い詠詞したとさ  
れる。「音楽の道を深め、その成果を故郷に返  
す」を肝に銘じ、実践した。生涯に250曲ほ  
どの翻訳作詞を残しており、「故郷の廃家」など  
もよく知られる。

# LWのひろば

## 若い日に旅立つた夫へ

野崎田鶴子 84歳 愛知県

生在る者、老若男女ひとり残らず、みな死に向かって歩んでいる。信仰生活者（プロテスチント）として死を恐いとは思わないが、いかにしてどのような形で死を迎えるべきではないか、人生の大問題である。これまでに体験し直面したどの課題よりも、死こそ、生きとし生けるものにとって深刻な大事業である。

夫を送って40年近く、一人の生活

が続いた。天国で待っていてくれる

であろう夫を忘れないためにも、ボ

ケたくない頑張っている。夫の旅

立った日の若さは、今、私の子ども

と等しい。シワだらけのおばあさんを、覚えていてくれるだろうか。夫との北海道旅行の約束を果たせぬまま、突然逝ってしまった故、再び逢えた日、夢みた北海道への旅を実現しよう。

リビングウイルは、その日のための望みでもある。

## あの世とこの世の境

大久保みよ子 74歳 東京都

11年前、2006年の4月に尊厳死協会に入会した。

前年の冬に病院で亡くなった夫の看取りを経験したことが直接の動機だつた。夫は何回か手術をしたもの

今まででは会員証をお守り代わりにしていただけの私だが、今年1月、そのお守りが現実的なお守りとなってくれた。かかりつけ医で肺炎と診断され即入院したのだが、数日後に容体が急変し大学病院に緊急転送された。肺炎は肺炎でも急性間質性肺炎だった。その時、頭ははつきりしていたこともあり、救急医に会員証を見せ「延命治療はしないで」と頼んだ。

何とか生還し、数か月後、尊厳死協会に直接感謝を伝えたい」ともあり、初めて協会の「サロン in 本郷」

の、大腸がんが肺に転移して、ある日、急激に悪化し呼吸困難に陥ったため、かかりつけの病院に入院した。そこで喉を切開して、強制呼吸させる生命維持装置に繋がれた。夫は現職の社長だったため、すぐに死なれては困ることが多すぎた。その意味では、生命維持装置のお陰で、彼は自分のこの世での責任をなし遂げられたと思う。

しかし、3か月近くその様子を目にしていた私は、自分の最期の時に絶対に繋がれたくないと思った。それで尊厳死協会の会員に登録したのである。

今まででは会員証をお守り代わりにしていただけの私だが、今年1月、そのお守りが現実的なお守りとなってくれた。かかりつけ医で肺炎と診断され即入院したのだが、数日後に容体が急変し大学病院に緊急転送された。肺炎は肺炎でも急性間質性肺炎だった。その時、頭ははつきりしていたこともあり、救急医に会員証を見せ「延命治療はしないで」と頼んだ。

何とか生還し、数か月後、尊厳死協会に直接感謝を伝えたい」ともあり、初めて協会の「サロン in 本郷」

に参加した。  
最後に皆さんにお伺いしたい。あの世の入口まで行って戻られた方はおいでだろうか。臨死体験をされた方という意味です。妄想ではなく、私は、あの世とこの世の境の映像をハッキリと見たからです。

## ボランティア 18年

斎藤広泰 84歳 北海道

第二の職場を66歳で退職してから、老人介護施設のボランティアをして18年になります。一日1~3時間、施設のデイサービスに通つてくる高齢者に、飲み物のサービスや買い物の手助け、車いすを押したりなど。最近は囲碁やマージャンのお相手もしています。なかには90歳前後の高齢者もいて、日々、元気をもらっています。

施設には喫茶コーナーもあり、コーヒーを飲みながらの日常の交流の場ともなつており、そこででの話題は、専らこれからの方。なんといつても「ピンピンコロリ」と一番。しかし、はたして、そううまくいくだろうか。

私は毎年更新する遺言書の表に



「死の直前に開封可」と認め、「尊厳死の宣言書」を添え、延命治療をお断りすることにしています。このようないふねの措置をしてから少し心配が薄くなりました。

毎日しているボランティアは私の生活の原点になっています。日々感謝し、ボランティアは他人のためにではなく、自分のためなのだと改めて痛感するこの頃です。

## よく死んでいくために

馬場弘好 79歳 静岡県

縁起でもないと遠ざけられていた死について、健全なうちに考える時代になつたと感じています。

9年前、人工呼吸器を装着した親せきを見舞った経験から、自分の死方に自ら考え表明することは、よりよい最期を迎るために大切なことだと気づき、日本尊厳死協会に夫婦で入会し、登録しました。

老老介護や認認介護（認知症同士の介護関係）が増える高齢社会について、元気なうちに人生の終末をどう迎えるか、家族で話し合つておく必要があると考えています。本人の意思を確認することが難しい時、家

### 編集部より

●投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファックス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.com)で。

●写真の募集 1月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送。選者は日本写真家協会の八重樫信之氏です。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは11月15日です。



族は重大な決断を迫られます。あらゆる判断を家族に託さなければならなくなつた時、家族はその選択に悩むはずです。

終末期の人工栄養法でも、私たち夫婦は胃ろうが必要になつた際、「胃ろうを着けない」と文書に明記しています。

人生の終焉を考えることは、自分を見つめ、今をよりよく、自分らしく生きることにつながり、それが生きたことは、よく死んでいくことだと確信しています。

### 八重樫先生の ここがポイント

都内の自宅ベランダから  
川崎方面を撮影。  
霧の上に顔を出した  
ノッポビルが、  
背比べしているようです。

会員になってもLWの勉強は続きます ぜひご参加を

## 関東甲信越支部 | ☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.com

### 公開講演会inつくば

日程〇12月9日(土) 午後1時半～午後4時半  
会場〇つくば国際会議場 中ホール200  
茨城県つくば市竹園2-20-3  
つくばエクスプレスつくば駅 徒歩10分

講演1「安らかな看取りを求めて」

講師〇岩尾總一郎 協会理事長

講演2「自然死のススメ」

講師〇平野国美氏

医師、茨城県立医療大学客員教授、  
ホームオングリニックつくば院長

定員〇定員200人

入場無料、申込不要、先着順

### 《地域サロン》のお知らせ

お茶を飲みながら皆さんでお話をする集まりです。  
皆さんの地元でも開催できます。問い合わせは支部まで。

#### in川崎区 (予約不要、先着順です)

日程〇10月18日(水) 午後2時～4時

会場〇プラザ田島4F 第2学習室

川崎市川崎区追分町16-1 カルナーザ川崎  
4階(1階はDAISO)  
JR川崎駅東口バスターミナルより臨港バス、大師  
行もしくは三井埠頭行で「大島3丁目」下車

#### in川口 (30人、予約不要、先着順です)

日程〇10月27日(金) 午後1時半～3時半

会場〇川口総合文化センター・LILIA(リリア)／  
タワー棟10階和室 JR京浜東北線川口駅西口正面

#### in本郷 (電話予約が必要です、支部まで)

日程〇10月13日(金)、28日(土)、11月10日(金)、  
18日(土)、12月8日(金)、16日(土)。

いずれも午後1時半～3時

会場〇支部事務所(本部事務局内)

地下鉄丸ノ内線か大江戸線本郷三丁目下車すぐ

## 北海道支部

☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

### 尊厳死を語るつどい

日程〇10月27日(金) 午後2時～4時半

会場〇札幌エルプラザ3階ホール

札幌市のJR札幌駅北口近く

テーマ「看取り—自宅と介護施設の問題点」

講師〇飯田とよ子氏

特養老人ホーム「ふるさと」看護師

小林孝広氏

特養老人ホーム「とよひらの里」施設長

下倉賢士氏

札幌医療生協ホームケアクリニック札幌  
ソーシャルワーカー

馬場恵子氏 支部理事、看護師

定員〇300人 無料

### 北広島地区懇話会 講演会

日程〇10月17日(火) 午後2時～3時半

会場〇北広島市芸術文化ホール 2階活動室

講演〇「法と尊厳死」

講師〇馬場正昭氏

弁護士、元日本弁護士連合会副会長

定員〇70人 どなたでもどうぞ

### おしゃべり広場

日程〇10月20日(金) 午前10時～正午

11月21日(火) 午後1時～3時

会場〇札幌エルプラザ3階多目的室

## 東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

### 第4回日本リビングウイル 研究会 東北地方会

#### テーマ「認知症 800万人時代に備える」

日程〇10月15日(日) 午後1時半～4時

会場〇仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」

(地下鉄南北線「五橋」駅、南1番出口、  
徒歩3分)

挨拶〇協会東北支部長 橋村襄

#### 第1部 基調講演

「明日はわが身か?  
—認知症の引き起こす諸問題—」

講師〇青嶋利明氏

宮城県認知症疾患医療セ  
ンター長、こころのホス  
ピタル・古川グリーンヒ  
ルズ副院長

#### 第2部 討論

コーディネーター〇

飯島俊彦氏

精神科医師・日本尊厳死協会東北支部理事

パネリスト〇

深澤文雅氏

グループホーム「ふかふか・はうす」所長

小野春佳氏

こころのホスピタル・古川グリーンヒルズ相談  
員、精神保健福祉士

青嶋利明氏

宮城県認知症疾患医療センター長

どなたでも参加できます。無料

後援〇宮城県医師会、仙台市医師会、河北新報社

問い合わせ先〇東北支部事務局

### 第26回 仙台駅横 リビング・ウイル交流サロン

テーマ「認知症の人とこう付き合っています  
—上手な対応がいっぱい」

日程〇10月13日(金) 午後2時～3時半

会場〇「せんだいアエル」6階特別会議室

(JR仙台駅西口、徒歩3分)

お誘い合って、どなたでもどうぞ。無料

## 東海支部

☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.com

### 29年 日本リビングウイル 研究会 東海地方会

#### テーマ「認知症とりびングウイル」

日程〇11月3日(金、祝日) 午後1時半～4時半

会場〇愛知県医師会館9階大講堂

=名古屋市中区栄。中日ビル50m南

挨拶〇岩尾總一郎 理事長

基調講演「認知症患者の  
尊厳と医療の役割」講師〇三浦久幸さん  
国立長寿医療研究センタ  
ー在宅連携部長

#### パネル討論

「認知症の人の思いを支える」、意見交換も

◎権利擁護の立場から

山田隆司さん 東濃成年後見センター事務局長

◎施設介護の立場から  
鬼頭惠津子さん グループホームはるた施設長

◎在宅介護支援の立場から

恒川千尋さん ケアマネジャー

司会〇安藤明夫 協会東海支部理事

#### 日本医師会生涯教育認定講座

どなたでも参加できます。

定員〇定員200人

共催〇愛知県医師会、名古屋市医師会

後援〇中日新聞社

#### 地域サロンへのお誘い

日程〇10月25日(水)、12月27日(水)、

いずれも午後1時半～3時

会場〇名古屋市中村区の青木記念ホール

地下鉄中村公園駅から徒歩5分

終末期医療、在宅介護など日々感じていること  
を、お茶を飲みながら語り合いませんか。  
希望者は支部までご連絡ください。

## 九州支部

☎ 092-724-6008 ✉ kyushu@songenshi-kyokai.com

### 第4回日本リビングウイル 研究会 九州地方会

#### テーマ「最期は自分で決められる」

日程〇11月11日(土) 午後1時～3時  
会場〇鹿児島市の鹿児島県歴史資料センター  
黎明館

演者〇ニノ坂保喜氏 にのさかクリニック院長  
在宅ホスピスの場で

下野謙慎氏 鹿児島市立病院救命救急  
センター医長  
救急の場で

五反田満幸氏 鹿児島市医師会在宅医  
会会长、協会がごしま会長  
在宅の場で

長尾和宏 協会副理事長  
協会の考え方総論

定員〇300人(無料、どなたでもどうぞ)

後援〇鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、鹿児  
島県看護協会

問い合わせ〇協会がごしま事務局・担当井上  
(五反田内科クリニック内、☎ 099-259-2038)

### ふくおか公開講演会

日程〇10月14日(土) 午後1時半～4時

会場〇福岡市の天神ビル11階9号室

講演1「先輩医師の教え—死の床について」

講師〇松股 孝氏  
協会ふくおか会長、遠賀中間医師会おかざ  
き病院医師

講演2「在宅医療と尊厳死」

講師〇輪田順一氏  
協会ふくおか役員、みずほ内科・歯科クリ  
ニック医師

定員〇120人

問い合わせ〇支部事務局へ

### 第9回くまもと県民フォーラム

日程〇10月21日(土) 午後1時半～4時20分  
会場〇熊本県医師会館(熊本市中央区花畠町、市  
役所電停前)

#### 特別講演Ⅰ

「私が決める 私が選ぶ 人生の最終段階」  
～わたし流「大往生」

講師〇前田淳子氏 在宅医療研究所「てとてとコ  
ロ」副会長、まえだクリニック院長

座長〇吉田仁爾氏 協会くまもと副会長

#### 特別講演Ⅱ

「お楽しみはこれからだ」  
～豊かな人生の最終章を迎えるために～

講師〇安東由喜雄氏 熊本大学医学部部長、大学  
院生命科学研究部長

座長〇安藤正幸氏 協会くまもと会長

2つの特別講演の間に寸劇があります

定員〇300人

後援〇熊本県医師会、熊本市医師会、熊本県看護協  
会、熊本県老人保健施設協会、熊本市、熊本県

問い合わせ〇協会くまもと事務局  
(表参道吉田病院内 藤本) ☎ 096-343-6161

### 第18回 おおいた市民公開講演会

日程〇10月29日(日) 午後1時半～4時

会場〇別府市公会堂 大ホール 550席

講演1「119番の向こう側～救急救命の現場から～」

講師〇金子 浩氏 救急救命士

講演2「高齢化社会の法律問題」

講師〇佐々木淳夫氏 弁護士

問い合わせ〇協会おおいた事務局  
(☎ 0977-23-2345、麻生)

### 第8回 九州在宅医療推進 フォーラムin長崎 市民公開講座

日程〇11月18日(土) 午後2時～3時半

会場〇長崎ブリックホール国際会議場 426席  
＝長崎市茂里町

講演〇「在宅医療の理想と現実」

講師〇長尾和宏 協会副理事長、長尾クリニック  
(尼崎市) 院長

問い合わせ〇協会ながさき事務局へ  
(白髪内科医院内) ☎ 095-822-5620

## 関西支部

☎ 06-4866-6365 ✉ kansai@songenshi-kyokai.com

### 市民公開講演会in西宮

テーマ「穏やかな最期を迎えるために」

日程〇10月7日(土) 午後1時半～4時半

会場〇西宮市民会館アミティホール

講師〇関本雅子さん 関本クリニック院長、支部理事

司会〇長尾和宏 副理事長、関西支部長

入場無料で、どなたでも参加できます。  
申し込みなしで来てくださいOKです。

### サロン交流会

テーマ「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは?  
～リビングウイルが有効になるために～」

## 四国支部

☎ 089-993-6356 ✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

### 第4回日本リビングウイル 研究会 四国地方会in徳島

#### 基本テーマ

「リビングウイルを意味あるものに  
するためには、どうすれば良いのか、  
一緒に考えてみましょう。」

日程〇11月19日(日) 午後1時半～4時

会場〇徳島市のあわぎんホール  
(徳島県郷土文化会館) 5階小ホール

#### 第1部 講演

演題「明るい終活のススメ」

講師〇木下英孝氏  
木下ファミリークリニック院長

#### 第2部 パネルディスカッション

事前指示書が役立つ場面を寸劇で考える  
～医師・看護・介護や患者からの意見～

一般公開 問合わせは支部まで。

### サロン喫茶去だんだん

日程〇10月6日、11月17日、12月1日、いずれも(金)

### 趣味あれこれ会

日程〇10月20日(金)、11月17日(金)

会場〇いずれも支部事務所

日程〇11月5日(日) 午後1時半～3時半  
会場〇関西支部事務所(JR新大阪駅、地下鉄新大阪駅から徒歩5分)

定員〇15人 予約を支部まで

港谷支部理事が担当し、自由に話し合います。

### 定例サロンへのお誘い

日程〇第2、第4火曜日、午後1時半～4時  
10月10日、24日 11月7日、21日  
12月12日、26日

会場〇関西支部事務所

### リビングウイル講演会in愛媛

日程〇10月22日(日) 午後1時半～3時半

会場〇松山市の愛媛県美術館講堂

講演〇「老いも認知症も妻もあきらめて  
生きる～終末期医療の現場から～」

講師〇中城 敏氏 医療法人誠志会砥部病院院長

### エンディングノート講座

テーマ「終末期について」

日程〇11月10日(金) 午前10時～11時

会場〇四国支部事務所

講師〇野元正弘支部長

受講希望の方は支部事務所までご連絡ください。

### リビングウイル香川懇談会(公開)

日程〇11月19日(日) 午後1時～4時

会場〇市民交流プラザIKODE瓦町大会議室1

高松市常磐町1-3-1 瓦町FLAG 8階

講演〇「認知症に備える  
～正しく理解し、予防と対応を考える」

講師〇中村光夫氏

いわき病院認知症患者医療センター長

事前に会員から寄せられた質問に関し、懇談も



## ●本部

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-27-8  
太陽館ビル501

TEL 03-3818-6563  
FAX 03-3818-6562

メール  
info@songenshi-kyokai.com

ホームページ  
<http://www.songenshi-kyokai.com/>  
郵便振替口座  
東京00130-6-16468

## ●北海道支部

〒060-0807 札幌市北区  
北7条西2丁目6 37山京ビル801  
TEL 011-736-0290  
FAX 011-299-3186

## ●東北支部

〒980-0811 仙台市青葉区一番町  
1-12-39 旭開発第2ビル703号室  
TEL 022-217-0081  
FAX 022-217-0082

## ●関東甲信越支部

〒113-0033 東京都文京区  
本郷2-27-8 太陽館ビル501  
TEL 03-5689-2100  
FAX 03-5689-2141

## ●東海支部

〒453-0832 名古屋市中村区  
乾出町2-7 正和ビル2階  
なかむら公園前法律事務所内  
TEL 052-481-6501  
FAX 052-486-7389

## ●北陸支部

〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1  
山崎法律事務所内  
TEL 076-232-0900  
FAX 076-232-0932

## ●関西支部

〒532-0003 大阪市淀川区  
宮原4-1-46 新大阪北ビル702号  
TEL 06-4866-6365  
FAX 06-4866-6375

## ●中国地方支部

〒730-0024 広島市中区  
西平塚町2-10  
TEL 082-244-2039  
FAX 082-244-2048

## ●四国支部

〒790-0067 松山市大手町1-8-16  
二宮ビル3F B  
TEL 089-993-6356  
FAX 089-993-6357

## ●九州支部

〒810-0001 福岡市中央区  
天神1-16-1 毎日福岡会館5階  
TEL&FAX 092-724-6008

# リビング・ウィル Living Will

(終末期医療における事前指示書)  
(平成29年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

□私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りいたします。

□ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。

□私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げるとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

## リビング・ ウィルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表した「リビング・ウィル」を行、その普及に努めています。現在11万人を超す方が「リビング・ウィル」を持ち、安心した日々を送っています。自然の寿命を迎えることは、最期の日々をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。

お友だちやお知り合いに協会や「リビング・ウィル」のことをお伝えいただければと願っています。

## 事務局から

### 会費の自動払込のご案内 希望者はご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがありますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。次の要領で実施しております。

#### 対象 ▶ ご希望の会員

払込日 ▶ 会費払込該当月の28日(10月払込の方なら10月28日に引き落とし)

#### 払込額 ▶ 会費相当額

手数料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)のご負担があります

取扱 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、金融機関、ゆうちょ銀行、農協含む)

領収書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷しています。



今号の1枚  
「秋色はずむ」

まるでパズルのよう、とっても遊びではありません。支部の催しを伝える「支部活動秋→冬」の頁作りのこと。掲載は北の支部から、行事が頁を跨がないように読みやすさの工夫をしていますが、支部により季節により原稿の行数が異なります。情報を損なわないよう行数を削り、体裁を変えてうまく収まつても、支部には泣いてもらうこともあります。今号は4頁に地域の催しがたっぷり。お出かけにはいい季節です。  
(白井)

## Living Will 目次 —会報2017年10月 No.167 —

- 02 理事長対談  
参議院議員 山東昭子さん
- 07 協会の新役員決まる
- 08 ファシリテーター養成研修会
- 09 第6回 LW研究会開く
- 10 LW受容協力医師制度の展望  
ルポ・五味博子医師の活動
- 12 ●連載「四季の歌」  
旅愁
- 14 ●LWのひろば
- 16 ●支部活動 2017秋~冬
- 20 LW受容協力医師のリスト
- 22 事務局から/編集後記/目次
- 23 終末期医療における事前指示書/  
本部支部一覧  
裏表紙 出版案内

協会会員:11万2305人  
(2017年9月7日現在)

次号は、  
2018年1月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。  
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

## 編集後記

●ひと昔前のテレビCM「24時間戦えますか?」を思い出せるような、受容協力医師・五味博子さんの活動でした。「寝なくていいのよ、私は」と、年間200人ほどを在宅で看取ります。私も在宅で両親を見取りましたが、医師も訪問看護師も、夜も昼もない感じでした。医師が交代で対応するならまだいいのでしょうか、五味さんの場合、一人。広い市原市内を駆け回っています。